



高橋けいすけ

県議会報告

<http://www.keisuke-t.com/>

No.22

2014年1月1日

発行人/高橋啓介県議会議員

自宅/山形市高堂1-5-20-3

☎023-643-4847

県議会山形県民クラブ執務室

☎023-630-3211



▲吉村知事と県政課題について語り合う高橋県議(左)

新春のお慶びを申し上げます。



常日頃より、皆様方から力強いご支援を戴き心から敬意と感謝を申し上げます。早いもので、県政に送って頂いて7年

目を迎えることが出来ました。これまで、より良い社会を目指して政治に携わって参りましたが、残念ながら政治情勢は大きく後退して来ています。一昨年の解散総選挙、そして昨年7月の参議院選挙で安定多数を得た安倍政権。「税と社会保障の一体改革」によって今年の4月から消費税が引き上がるもの、生活保護制度や介護保険制度を始めとする社会保障のサービスは切り捨てられ負担が増す環境になっています。また、選挙公約で反対していましたTPP交渉にも参加、更に、未だ事故原因が判明していない原発につきましても再稼働を決め、法人税からは復興財源を徴収せず、まさに国民の声が反映されない政治になっています。加えて、衆・参両議院で強行採決しました特定秘密保護法の制定につきましても、国民の知る権利を奪い根底から民主主義を覆すものと言えます。ましてや、国家安全保障会議において従来の政府見解を蔑ろに初の武器輸出を行い、着実に集団的自衛

吉村県政を支え、活気ある県土づくりに全力

権の行使に向けて動き出し、「戦争の出来る国」に大きく舵をきっています。

安倍総理は、これまで培われて来ましたが基本的な人権の尊重より、「国」や「国家」を重視した考えを強く押し出しています。多くの年配の方々やマスコミ報道でも、戦前回帰の指摘がなされており、安心社会の実現に向け頑張って行かなければと思っております。

さて、県政の課題は何と言っても人口減少に歯止めをかけ活気に満ちた県土づくりをめざすこととあります。少子高齢化社会を迎えた本県にとって、若者がいかに県内に定着し、安心して働ける環境を築いていくのか。派遣労働や非正規雇用の環境改善等が求められています。その環境が整うことによつて、高齢化社会を支える基盤が確立するものと思えます。

結びに、今年一年皆様にとりまして、輝かしい年になりますようご祈念申し上げます。



▲総務常任委員会現地調査 スパイバー株式会社の関山社長さんから説明を受ける。

9・12月定例会で
一般質問

「合成クモ糸繊維」を活かした
産業の振興について

吉村知事
：慶應義塾大学先端生命科学研究所から生まれたベンチャー企業であるスパイバー株式会社が開発した「合成クモ糸繊維」は、強度と伸

縮性、軽さ等を併せ持つ夢の繊維であり、鉄鋼やガラス、石油化学繊維など、これまでの産業を支えてきた基幹素材に匹敵する、次世代の素材として大きな注目を集めているところでもあります。また、世界で初めて同繊維の量産化に成功したことから、防弾チョッキや次世代自動車、メデイカル関連まで幅広い分野での活用や、環境にやさしい脱石油素材として期待されるなど、まさに世界のものづくりの潮流を大きく変える可能性も高まっております。

県としましては、サンプル提供先であるユーザー企業とスパイバー株式会社等が連携・協力して製品開発ができるよう、様々な企業の研究施設やマザー工場等を誘致し、一大研究開発拠点の形成を図るとともに、素材や製品の量産化工場などの県内への立地を促進し、同繊維を核としたバイオクラスターの形成に取り組んでまいります。

過疎集落の再生・活性化の
取組みについて

廣瀬企画振興部長

：地域の担い手となる人材の確保・育成に向けアドバイザーの派遣や研修を通して地域の取組みを支援して来ています。課題として、所得の向上と雇用の場の確保、特に地域の農産物・資源を活かした6次産業化による収益向上の取組みを進めていく

『県政報告会』のご案内

この度、『県政報告会』を開催することになりました。この機会に、高橋県議に直接、ご意見やご要望がある方は、是非お越しいただきますようご案内申し上げます。

■日時／2014年2月15日(土)
開会15:00～(開場14:30)

■会場／『パレスグランデール』

■会費／3,000円

必要があり、また、地域農業のあり方を示す「人・農地プラン」の作成が進められており、引き続き市町村と連携し、プランづくりやその実践を支援してまいります。

このほか、再生可能エネルギーの導入等による所得向上の取組みを進めるとともに、道路や生活排水処理施設などの生活基盤の整備、高齢者等の保健・福祉の向上を図るなど、安心して住み続けたいと思えるような地域づくりを支援してまいります。

県立高校における不登校・中途退学への対応策について

菅野教育長：不登校と中途退学の状況は、いずれも全国平均を下回っているものの、大きな課題であると考えております。

特に全日制では1年生での不登校が最も多く、その中の約3分の2は中学3年生のときは普通に登校していることから、いわゆる「高一ギャップ」の対応策として、オリエンテーションの充実や宿泊研修等とおした集団づくりなど高校生活への速やかな移行に努めて参ります。また、分かる授業の推進やキャリア教育の充実、そして担任が生徒に寄り添い丁寧な相談活動ができるよう努めるほか、全校に派遣しているスクールカウンセラーを活用し、生徒が不安や悩みを訴えやすい環境づくりに努めてまいります。



2月定例会議で
代表質問を行います。
■日時/2月27日(木)
11:30~12:30
傍聴いただければ幸いです。

学校司書のあり方について

（米沢女子短期大学で資格を取得しても、現在は正規職員の道は閉ざされている）

菅野教育長：現在の行財政改革の中では、学校司書を含む現業職員については、退職者を補充しないこととされており、3月に策定した山形県行財政改革推進プランにおいて、現業職のあり方について検討することとなっております。一方、国レベルでは、学校司書配置の必要性についての議論がなされているところであります。



県教育委員会といたしましては、このような動向も念頭に置きながら、学校図書館に求められる役割が大きく変化し、読書だけでなく、各教科での調べ学習や小論文指導の場など、校内の学習・情報センタールとしての機能を担うようになってきていることを踏まえ、その中核的な役割を果たす学校司書の業務の内容や配置のあり方について検討してまいりたいと考えております。

住宅リフォーム制度の継続を約束

建設労働組合の皆さんと一緒に、吉村知事に要請して4年目を迎えました。当初、仕事の確保と景気回復を目的に制度化をお願いし実現して戴いたものです。また、県の動きと一緒に県内35市町村も対応して戴き多くの皆さんから喜んでいただいております。先日も、吉村知事に要請をさせて頂き、吉村知事からは、継続する旨の話を頂きました。



山形駅西口拠点施設の整備は 山形市との連携が不可欠

これまで、昨年から専門分野の皆さん方で構成する「駅西拠点施設検討有識者懇談会」で施設整備のあり方につきまして検討がなされ、この度施設の概要案が示されました。所管する総務委員会におきまして集中審議を行いました。

主な意見としまして、「財源の問題もあり構想は出たものの凍結してきた経緯がある。財源の捻出はどうか」「借金の総額を増やさないと財政方針があり、人件費や他の事業にしろ寄せが出てくるのでは」「病院や警察署の建て替えが遅れる心配がある」

「建設コストや利用面からしても山形市民会館との合築を検討したのか」「テルサとの兼ね合いで小ホールはカット出来るのではないか」「展示スペースが計画されていない」「毎年の運営コストと施設の借



◆施設の概要

事業費(159億円)大ホール(2,000席)、小ホール(300席)、創造・育成のための練習室(音楽・舞踊・演劇等)、レストラン・カフェ、県産ショップ、野菜工場、防災減災機能・再生可能エネルギーの活用等々

◆整備スケジュール

基本・実施設計(2カ年)建築工事(3年間)
開館は平成31年度の予定。

金返済で他の事業にしわ寄せが心配される」「サツカー場建設の声もあったが、賑わい創出の関係では山形市との連携が不可欠である」等々の審議が行われ、執行部からは、本日の審議状況や県民の意見を踏まえ来年度予算編成にあたることとなりました。

七日町にある県民会館は築50年を過ぎ施設設備の老朽化し、建設自体に反対する声はありませんでした。更に、閉会中の一月に集中審議を行うことになっておりますので、是非声を寄せて戴ければ幸いです。



高橋啓介活動記録



◆『酒田医療センター』を視察



◆『原蚕の杜』を視察



◆「特定秘密保護法」に反対し
山形市内をデモ行進



◆『緑町庭園』を視察



◆『ヨーグルト工房鳥海』を視察



皆様方からの県政に対するご意見をお待ちしております。